左:ズィグマールス ズィルガルヴィス駐日大使 右:石橋民生理事長

関西日本ラトビア協会の概要

所在地	大阪市北区梅田3-3-5　大和ハウス大阪ビル内
設　立	2008年（平成20年）9月24日
会員数	個人会員 69名 法人会員 81社（2023年3月末現在）
事業内容	①ラトビア共和国の文化、スポーツ、経済等で日本との交流に関する情報を集め、会報・インターネット等を通じて発信する。 ②ラトビア共和国から日本を訪問する人達と交流し、活動を支援する。そしてラトビアからの留学生、または日本からラトビアへの留学生に対する奨学金等の支援を行う。 ③日本からラトビア共和国に観光その他の目的で訪問しようとする人達の企画を支援する。

顧問・理事一覧

（2023年9月末現在）

名誉顧問	ズィグマールス ズィルガルヴィス	（ラトビア共和国特命全権大使）
顧　問	多賀 敏行	（元駐ラトビア日本大使）
	東郷 武	（前関西日本ラトビア協会会長・前在大阪ラトビア共和国名誉領事）
理事長	石橋 民生	（在大阪ラトビア共和国名誉領事・大和ハウス工業（株）特別顧問）
常務理事	池田 裕子	（元関西学院大学学院史編纂室専任主管）
	上野 慶三	（リガ ウッド ジャパン代表）
	溝口 明子	（SUBARU 代表）
理　事	浅野 敏行	（（株）アサノ 社長）
	石橋 さゆみ	（（株）ユニフロー 社長・名誉領事夫人）
	植田 多江子	（NPO法人 芦屋市国際交流協会 理事）
	上平 豊久	（（株）大伸社 アドバイザー）
	太田 敏正	（（株）プロアクティブ経営 社長）
	大仁 公一	（（株）伸和エージェンシー 社長）
	甲斐 丈晴	（大和ハウス工業（株） 秘書室 次長） ※事務局長兼務
	加藤 拓	（アント・キャピタル・パートナーズ（株）マネージング・パートナー）
	金井 雅孝	（大和ハウス工業（株）執行役員 秘書担当）
	清水 良二	（清水木材（株） 社長）
	竹村 肇	（（公財）日本棋院 参与）
	谷本 瑞絵	（ラトビア・ヘイズ 代表）
	鶴田 宜江	（Cafe Laima 代表）
	寺岡 志郎	（大阪日本ポルトガル協会）
	平越 國和	（丸国林業（株）会長）
	堀口 大樹	（京都大学准教授）
	山本 拓	（日本ノボパン工業（株）社長）
監　事	木村 宗光	（元大和ハウス工業（株）取締役） ※理事兼務
	近久 啓太	（大和ハウス工業（株） 東京本社総務人事部長） ※理事兼務

発行：2023年10月
編集：在大阪ラトビア共和国名誉領事館　関西日本ラトビア協会事務局
大阪市北区梅田3−3−5　大和ハウス大阪ビル

JLSK NEWS

2020年度～2022年度版 関西日本ラトビア協会ニュース Vol.12

手つかずの自然と
中世の面影が色濃く残る国

Latvia

ラトビア

夏至が迫るヴィゼメ地方の黄金色の朝焼け

バルト海に面した自然豊かな国

ラトビア共和国は、「バルト三国」の中央に位置する北ヨーロッパの小さな国。北海道の約77%の面積に、およそ190万人の人々が暮らしています。ラトビアの風景の中で、まず印象に残るのは緑の多さ。国土の半分を森が占め、河川や湖が点在する自然豊かな土地に、稀少な動植物も生息しています。最高峰でも標高312mしかないため、少し高いところへ登ると、美しい大地がどこまでも広がっている光景に出会えます。日本と同様に四季があり、新芽が芽吹く緑眩しい春、花の咲き誇る色鮮やかな夏、黄金色に輝く紅葉の秋、モノクロのコントラストが広がる白銀の冬と、変化に富んだ美しい季節がめぐります。

伝統文化を大切に継承する人々

自然があふれるラトビアには、四季の移ろいに添った生活の楽しみ方を熟知し、伝統文化を大切に継承する人々が、美しい建造物や音楽に囲まれながら暮らしています。ミトンをはじめとする編み物、麻や毛の織物、樫や白樺から作られる木工品などの手工芸品はラトビアの魅力の一つ。また、ユネスコ無形文化遺産でもある「歌と踊りの祭典」をはじめ、伝統文化を体現するお祭りが大切に受け継がれています。

クリスマスツリー発祥の地

1510年、市庁舎広場に立てられたモミの木に世界で初めて装飾が施されたことから、ラトビアはクリスマスツリー発祥の地とされています。リガでは、11月下旬から1月上旬まで、大聖堂広場を中心にクリスマスマーケットが設営され、ホットワインを片手に買い物を楽しむ人が行き交います。

夏至祭

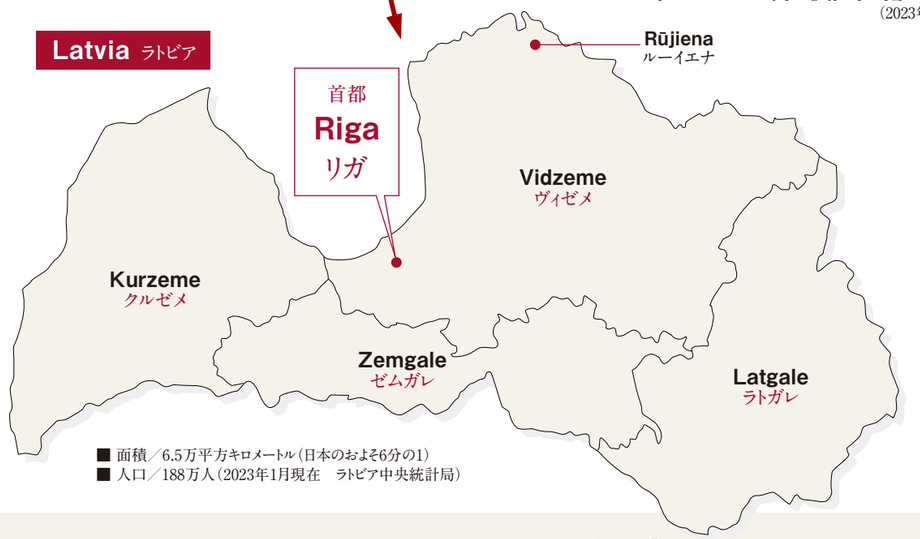
緯度が高く、夏と冬で日照時間が大きく異なるラトビアでは、古来より太陽の動きが重要視され、その節目に祭祀が行われてきました。特に夏至祭は代表的なお祭り。日中の時間が一番長い特別な日を家族や友人らと森や海辺で過ごします。この日は、女性は民族衣装をまとい、頭には花の冠、男性は樫の葉の冠をかぶり、焚火を囲んで歌い踊ります。

※地図は概略図であり、国名等も省略しています。

History

1282年		リガがハンザ同盟に加盟
1583年		リヴォニア戦争の結果、リトアニア・ポーランド領となる
1629年		スウェーデン・ポーランド戦争の結果、一部分がスウェーデン領となる
1721年		北方戦争の結果、大部分がロシア領、残りはポーランド領となる
1795年		第3次ポーランド分割により全土がロシア領となる
1873年		第一回「歌の祭典」開催
1918年	11月18日	独立を宣言
1920年	8月11日	ロシア社会主義連邦ソビエト共和国との間に平和条約締結
1921年	1月26日	日本を含む、5か国により、法律上の国家承認
1940年	8月 5日	ソ連に編入
1974年	6月18日	兵庫県神戸市とリガ市　姉妹都市提携
1990年	5月 4日	独立回復宣言
1991年	9月 6日	ソ連の国家評議会において バルト3国の独立を承認
2004年	3月29日	NATO加盟
	5月 1日	EU加盟
2008年	7月17日	北海道東川町とルーイエナ町（現ヴァルミエラ郡）姉妹都市提携
2014年	1月 1日	ユーロ導入
2015年	上半期	EU議長国
2016年	7月 1日	OECD加盟

※出典：外務省ホームページ https://www.mofa.go.jp/mofaj/area/latvia/index.html
在ラトビア日本国大使館 https://www.lv.emb-japan.go.jp/itprtop_ja/index.html
（2023年8月時点）



■ 面積／6.5万平方キロメートル（日本のおよそ6分の1）
■ 人口／188万人（2023年1月現在　ラトビア中央統計局）

まるで中世に迷い込んだかのような街並み Riga リガ

旧市街の中心地にて聖ペテロ教会を臨む

ダウガワ川沿いに教会の尖塔が立ち並ぶ美しいパノラマ風景が広がる首都リガ市。旧市街全体が世界遺産で、ハンザ同盟時代から残る建築群や敷き詰められた石畳が中世の雰囲気を今に伝える情緒ある街です。馬車の轍（わだち）の跡が残る細い路地や、時間をかけて丸くなった敷石からは歴史の積み重ねを感じます。また、頻繁に花束を贈る習慣があるラトビア人にとって花は生活の一部。旧市街はただ中世の面影を残すだけではなく、花や世界トップレベルのオペラやオーケストラなどの音楽など、滲み出るラトビアの奥深い伝統文化が重なり合って独特の雰囲気をつくっています。

photo & text by Akiko Mizoguchi

INDEX

1p
ラトビアとは

4p
活動報告（トピックス）

5p
寄稿
ラトビア音楽祭に参加して／常務理事 上野 慶三
ラトビア人教師イアン・オゾリンとの105年／常務理事 池田 裕子

8p
活動報告
関西日本ラトビア協会が「外務大臣表彰」を受賞
絵本を寄贈
ラトビア日本友好100周年記念事業
ダツェ トレイヤ・マスィー大使の退任
日本ラトビア音楽協会主催のチャリティ音楽イベントに協賛
タウトゥメイタスのコンサートに協賛
協会の奨学生　山﨑 志野さんが来館
関西日本ラトビア協会理事会開催
奨学生からの活動報告
『ラトヴィア放送合唱団』コンサートに後援
『ラトビアデイズ 2022 in大阪』が開催
在ラトビア日本大使館の一等書記官 今西貴夫様来館
北海道東川町を表敬訪問

21p
関西日本ラトビア協会会員

2020年度～2022年度の活動報告（トピックス）

2020年度 事業報告（2020年4月1日～2021年3月31日）

2020年度の活動は新型コロナウイルス感染症拡大のため大幅に縮小され「関西日本ラトビア協会総会」、「ラトビアトークサロン」などの主要行事や、「日本人高校生のラトビア短期留学（ホームステイ）派遣」、「日本語学習者訪日研修へのラトビア人招聘」などの協賛事業が中止となりました。

左:川口大使、右:上野常務理事

●在ラトビア日本国大使館特命全権大使 川口 康裕様から
協会へのメッセージを拝受

※川口大使のメッセージ全文を下記に掲載しています。
関西日本ラトビア協会ホームページ
www.jlsk-kansai.com

●港湾振興誌
雑誌「名古屋港」へ寄稿文掲載
2020年11月号（溝口常務理事）
※関西日本ラトビア協会ホームページに
掲載しています
www.jlsk-kansai.com

●第19回　日本語弁論大会優勝者へ
賞品協賛（在ラトビア日本大使館主催
賞品:日良往復航空券）

https://www.youtube.com/watch?v=B_KFCsEBCG8

●日本人留学生への奨学金付与（2名）
曲 杏美さん　リガ工科大学（～2020年4月）　　山﨑 志野さん　ヤーゼプス・ヴィートルス・ラトビア国立音楽院（2020年5月～2021年3月）

2021年度 事業報告（2021年4月1日～2022年3月31日）

2021年度の活動も新型コロナウイルス感染症拡大のため大幅に縮小されました。昨年同様、「関西日本ラトビア協会総会」、「ラトビアトークサロン」、「日本人高校生のラトビア短期留学（ホームステイ）派遣」、「日本語学習者訪日研修へのラトビア人招聘」などが中止となりました。

●ラトビア日本友好100周年
記念イベントへの協賛
（2021年12月7日～19日六本木ヒルズにて）

詳細は 9ページへ

●第20回　日本語弁論大会
優勝者へ賞品協賛
（在ラトビア日本大使館主催
賞品:日良往復航空券）

出典:在ラトビア日本国大使館ホームページ

https://www.youtube.com/watch?v=qrzxO9Zbtas

●日本人留学生への奨学金付与（1名）
山﨑 志野さん　ヤーゼプス・ヴィートルス・ラトビア国立音楽院（2021年9月から大学院）（2021年4月～2022年3月 ※8月を除く）

2022年度 事業報告（2022年4月1日～2023年3月31日）

2022年度は新型コロナウイルス感染症の影響を受けつつも、感染対策を取りながら緩やかに活動を再開いたしました。完全な形での活動再開は2023年度以降を予定しています。

●ダツェ トレイヤ・マスィー
ラトビア共和国特命全権大使
ご退任　（2022年6月22日）

詳細は 11ページへ

●ラトビアデイズ2022 in大阪への協賛・協力
（2022年11月25日～27日
グランフロント大阪うめきた広場にて）

詳細は 18ページへ

●女性ボーカルグループ タウトゥメイタス
来日コンサートへの協賛
（2022年7月3日）

詳細は 13ページへ

●第21回　日本語弁論大会優勝者へ
賞品協賛（在ラトビア日本大使館主催
賞品:日良往復航空券）

出典:在ラトビア日本国大使館ホームページ

https://www.youtube.com/watch?v=viU7KUEi07s

●関西日本ラトビア協会理事会開催
ズィグマールス ズィルガルヴィス
ラトビア共和国特命全権大使初参加
（2022年9月15日）

詳細は 14ページへ

●北海道東川町
（ラトビア ルーイエナ町の姉妹都市）
表敬訪問
（2023年3月28日～30日）

詳細は 20ページへ

●ラトヴィア放送合唱団
来日コンサートに後援
（2022年10月23日）

詳細は 17ページへ

●日本人留学生への奨学金付与（2名）
山﨑 志野さん　ヤーゼプス・ヴィートルス・ラトビア国立音楽院
（大学院）（2022年4月～8月）
宮本 航平さん　リガ工科大学（2022年9月～2023年7月）

ラトビア音楽祭に参加して

常務理事
上野 慶三

ラトビア音楽祭は、1873年6月26日に1,000名のSingerが参加して開催され、1940年代に踊りが追加された歌と踊りの祭典で、ユネスコ世界無形文化遺産に登録されています。2023年は150年目の記念祭典。ドイツの時代も、ロシアの時代も、ラトビア人の誇りを守り、歴史の継承と魂の叫びの場として受け継がれて来ました。

私の音楽祭への想いは深く、2003年に優雅荘厳なパレードに魅せられて虜になり、以後、2008年、2013年、2018年と参加してきました。そして2023年、5回目の音楽祭に参加し、ラトビア人の誇りと魂を肌に感じて感動しながら行進しました。

7月2日、パレードはラトビアの全市町村から歌と踊りの予選を5年かけて勝ち抜いて来た人達の名誉あるお披露目の舞台です。大使館の今西貴夫一等書記官と中川雅貴さん、吉村さんも私と一緒にパレードに参加しました。

8時、Espranade公園のステージでパレード参加記念の集合写真を撮りました。10時、大統領の150周年記念式典の開会の挨拶に続いてパレードがスタートしました。午後から大雨が降りましたが、19時を過ぎても行進は続きました。行進中、多くの仲間にお会いしました。パレードが終わって、北海道東川町の国際交流員アルタさんのお母さんも一緒に夕食をとった後、女性ボーカルグループ タウトゥメイタスの開幕コンサートに行き、その後も未明までビアレストランで歌い踊り、皆で音楽祭を堪能しました。

ラトビア人は、歩けるようになる2～3歳頃から歌い踊りながら5年毎の音楽祭を夢見ていますので、ほとんどの人は歌い踊ることができます。5年後、2028年は関西日本ラトビア協会として、ぜひ皆さんと一緒にラトビア音楽祭のパレードで行進できることを願っています。

タウトゥメイタスのAsnateとAurerija姉妹、鈴木亜衣さんと。

夕食-左から、アルタ母、(上野)、今西書記官、吉村さん、
宮本航平さん、中川さん

パレード(Latvia Finieris社チーム):左から、上野、今西書記官、
吉村さん、中川さん、後ろ:Valdisさん

参加者　7月2日パレード：1歳から96歳まで40,547名が参加
7月8日舞踊団：16,879名参加、　7月9日合唱団：21,300名参加　観客30,000名

大統領開会宣言

パレード風景

パレード前:Latvia Finieris社チームと私たち

音楽祭風景

ラトビア人教師イアン・オゾリンとの105年

常務理事
池田 裕子

2023年5月28日刊行
関西学院大学出版会

1980年に関西学院大学商学部を卒業し、母校に就職しました。以来、今年3月まで職員として働きました。学生時代を含めると、西宮市の上ケ原キャンパスに47年通ったことになります。上ケ原しか知らない私の世界が、関西学院の歴史（創立：1889年）を学んだことで大きく広がりました。広がった世界の一つがラトビア共和国です。退職を機に、私を新たな世界に誘ってくれた資料や人との出会いを書いて、全7章に分類し、本にしました。その第4章が「ラトビア人教師イアン・オゾリン」で、105年に及ぶラトビアとの交流を紹介しました。

オゾリンは、1918年から21年まで、関西学院高等学部（文科・商科、現在の大学に当たる）で英語と英文学を教えました。教師をしながら、1918年にロシアから独立した母国の外交代表としての職務を開始しました。当時、神戸には21カ国の外国領事館・公館があったのです。オゾリンが国旗を揚げていたのを記憶する教え子もいました。しかし、関西学院が刊行した年史の中にオゾリンが登場することはなく、長く忘れられた存在でした。

ラトビア人教師
イアン・オゾリン

私が学校の古い資料を見て、オゾリンに関心を抱いたのは1999年でした。アメリカ人宣教師とカナダ人宣教師がいる学校で、どうしてラトビア人が英語を教えていたのか、疑問を感じました。16カ国語を話す語学の天才と教え子が書いているのにも驚きました。しかし、オゾリンに興味を示す人は私の周りにはいませんでした。2007年12月、オゾリンに関する初めての原稿「関西学院のラトヴィア人教師をめぐって」を『学院史編纂室便り』第26号に書きました。すると、駐日ラトビア共和国大使館から電話がかかってきました。私が原稿を書いた前年、ラトビアは東京に大使館を開設していたのです。2008年3月、私は東京の大使館を初めて訪問しました。にこやかに迎えてくださったペーテリス・ヴァイヴァルス初代駐日大使は、私が書いた原稿をラトビア語に翻訳して本国外務省に送ったところ、外務大臣が大変喜んでいるとおっしゃいました。オゾリンの帰国以来、90年近く途絶えていた交流が再開した瞬間でした。

2011年には、日本とラトビアの国交樹立90年、国交回復20年を記念し、オーク（オゾリンとはラトビア語で「オーク」の意）と白樺の苗木が関西学院に贈られ（文学部北に植樹）、外務大臣からの感謝状が贈呈されました。さらに、2018年にはラトビア建国100年を記念し、ラトビアのグローグラス社製低反射ガラスを使った展示カバーの寄贈を大伸社から受けました（時計台2階に設置）。

本の刊行後、関西日本ラトビア協会、神戸外国人居留地研究会、関西学院同窓会東京支部三日月会で話をした際、オゾリンとの出会い、そしてオゾリンによって導かれた新たな世界での出来事にも触れました。

ペーテリス・ヴァイヴァルス
初代駐日大使と大使館で
（2008年3月11日）

2021 1.8

関西日本ラトビア協会が「外務大臣表彰」を受賞

2008年に発足して12年を迎えた2020年12月、留学生招聘を通じた人的交流や文化的交流といった日本とラトビアの友好親善を深める各種交流事業を評価していただき、外務大臣より栄えある賞をいただきました。

1月8日、外務省大阪分室にて、政府代表 特命全権大使（関西担当）山本条太様より、石橋理事長の名代として金井理事と甲斐事務局長が拝受しました。

この賞は、協会設立時より尽力いただきました東郷前理事長をはじめ、理事・会員の皆様、そしてサポートしていただいた関係者のご協力・ご支援のもと活動し続けてきた賜物だと思っております。

今後も、会員の皆様のご支援のもと日本とラトビアの留学生サポートなど、人的交流をはじめとして、様々な文化的交流も深めていきたいと考えています。

表彰状

関西日本ラトビア協会 殿

貴団体は日本とラトビアとの相互理解の促進に尽力されもって我が国と諸外国との友好親善に寄与しその功績顕著なものがありますことに深甚なる敬意を表するとともに表彰します

令和二年十二月一日

外務大臣 茂木敏充

2021 3

絵本を寄贈

関西日本ラトビア協会の元常務理事であり、神戸市立王子動物園の元園長でもあります権藤眞禎さんが『ズゼちゃん大好き』という絵本を出版されました。ズゼちゃんは、1996年にラトビアから神戸市の王子動物園にやってきた雌のアジアゾウで、今でも同園の人気者です。

この本は、ラトビアで生まれたズゼちゃんの生い立ちから日本に来たときの物語を権藤さんが愛を込めてまとめてくださった絵本です。

関西日本ラトビア協会では、この本を通じて多くの人にラトビアのことを知っていただけたらと思い、ラトビアのリガ市と姉妹都市提携を結んでいる神戸市の公立図書館と小学校、および全国の動物園に絵本を寄贈させていただきました。

また、公立図書館には、ズゼちゃんの絵本とあわせて、ラトビアの民話集や、ラトビアの民話をもとにした物語が描かれている絵本もお送りさせていただきました。これらの民話集・絵本は、ラトビアのルーイエナ町と姉妹都市提携をしている北海道東川町がラトビアの絵本作家の作品をもとに出版されたものです。今回、東川町に絵本寄贈についてお話したところ、東川町のご厚意で絵本を提供していただけることになり、一緒に寄贈させていただきました。

※関西日本ラトビア協会から『ズゼちゃん大好き』、『鹿姫ものがたり』を、東川町からは『ラトヴィア民話集』、『ラトヴィアのおはなし』、『夢みる森の歌』、『もりはいいところ』、『おおかみとわかもの』、『春までぐっすり』、『やったね!はりねずみくん』、『魔法の箱』を寄贈

ラトビア日本友好100周年記念事業「EXPANDING LIGHTS～クリスマスツリー 発祥の地、ラトビアからの贈りもの～」

12月 7日（火）～19日（日） 六本木ヒルズカフェにて
12月11日（土）～12日（日） 六本木ヒルズアリーナにて

ラトビア日本友好100周年記念事業「EXPANDING LIGHTS～クリスマスツリー発祥の地、ラトビアからの贈りもの～」が六本木ヒルズにおいて、ラトビア大使館主催で開催されました。期間中、六本木ヒルズカフェでは、ラトビア料理が提供され、ラトビア産の手作り雑貨や食料品などが販売されました。12月11日−12日のメインイベントでは、会場メインステージでの合唱・演奏の披露や、各展示ブースにおいてラトビアを感じる物品販売や、食事の提供なども行われました。

関西日本ラトビア協会も、このイベントを盛り上げるべく協賛しており、協会と関わりの深い方々も多数ご参加いただきました。

ラトビアのルーイエナ町と姉妹都市の北海道東川町のブースでは、2018年に協会の奨学生として頑張っていたアルタさんが、現在は東川町の国際交流員として頑張っている姿を見ることが出来ました。また、協会の事務局メンバーのダナさんも、ワークショップを開きました。

ほかにも、協会の谷本理事が代表を務める「LATVIA HAZE（ラトビア ヘイズ）」ブースでは、ハンドメイドの高保湿石鹸やキャンドルが販売され、同じブース内で溝口常務理事のお店「SUBARU」のバスケットやキッチンアイテムといったラトビア雑貨、「ズゼちゃん大好き（権藤元常務理事著）」「持ち帰りたいラトビア（溝口常務理事著）」の本も販売されていました。また、関西日本ラトビア協会の会報も置いていただきました。

メインステージでは、溝口常務理事のフォークディオウズマニーブのライブや、協会のトークサロンでスピーカーとして登場していただいた中川雅貴さんのライブが行われていました。出展ブースやモミの木を感じさせるような白樺合板で作られたモニュメントは、製作から設置まで上野常務理事（リガ ウッド ジャパン）にサポートしていただきました。

最終日には、2021年に協会で奨学金をサポートし、ラトビアで頑張っていた山崎志野さんが出演するリモートイベントも開催されました。

中川雅貴さん

ウズマニーブ

ダナさんのワークショップコーナー

東川町ブース

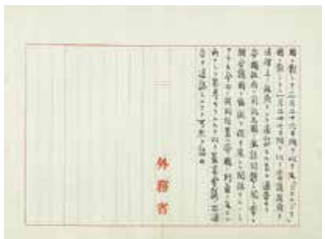
ラトビア日本友好100周年 ―― 常務理事 溝口明子

1918年11月18日に史上初めて独立を宣言し、1920年8月11日にはソビエト・ロシアと平和条約を締結したラトビア共和国でしたが、独立国家として国際社会から認められたのは翌年のことでした。1921年1月26日にパリで開催された連合国最高会議（日本、イギリス、フランス、イタリア、ベルギーの五か国が参加）にて独立国家として承認され、同年3月1日に日本において閣議決定されました。

2021年はラトビアと日本の外交関係が樹立して100周年にあたる記念イヤーでした。日本とラトビアのそれぞれで100周年を祝う様々なイベントが開催されました。

ラトビア・日本

100周年を祝う記念ロゴ
（提供:駐日ラトビア共和国大使館）



『「エストニア」「ラトヴィア」及「ジョルジア」各国政府を法律上の政府として承認の件』で始まる大正10年3月1日の閣議決定（外務省外交史料館所蔵）

2022 6.22

ダツェ トレイヤ・マスィー大使の退任 farewell reception開催

2017年から5年間、日本で特命全権大使を務められたダツェ トレイヤ・マスィー大使の退任にあたり、駐日ラトビア共和国大使館でfarewell receptionが行われました。

マスィー大使のご挨拶に始まり、ラトビアと日本との関係促進に貢献された方々に対し、感謝状の授与式が行われました。対象者は複数名おられましたが、関西日本ラトビア協会としては、石橋理事長、金井理事、甲斐事務局長が名誉ある感謝状をいただきました。この感謝状は、関西日本ラトビア協会の会員の皆様を代表して頂いたものと思っております。

授与式の後は、合唱団ガイスマの素晴らしい歌のパフォーマンスに続いて財務大臣政務官の高村正大衆議院議員の乾杯のご発声によりレセプションが始まりました。コロナ禍の影響により人数制限はありましたが、各関係者が集まり、マスィー大使の5年間の功績を語り合ったり、参加者が久しぶりの再会を楽しんだりしながら、和やかな雰囲気の中で執り行われました。協会からは、石橋理事長、池田常務理事、溝口常務理事らが参加させていただき、ラトビアに親交のある皆様とともに、マスィー大使の送別をさせていただきました。

マスィー大使には、協会の理事会、総会、トークサロンに参加して講演をしていただいたりした他、関西学院大学、神戸龍谷高校を訪問され、学生の皆さんにラトビアの歴史や文化を自らの言葉で伝えていただくなど、この5年間、精力的に数多くの交流活動をしてこられました。これから先も益々のご活躍を祈念しております。

2022 6.25

日本ラトビア音楽協会主催のチャリティ音楽イベントに協賛

早稲田奉仕園スコットホールにて、ウクライナ支援チャリティコンサートが開催され、関西日本ラトビア協会として協賛させていただきました。一刻も早くウクライナに平和が訪れることを願い、音楽の力で支援の輪を拡げていこうという想いが、出演者、そしてホールいっぱいに入ったお客様の間で感じられたイベントでした。

開会にあたり、主催者の日本ラトビア音楽協会の会長の松原千振様、続いて、元駐ウクライナ大使であり、関西日本ラトビア協会の初代会長をお務めいただいた天江喜七郎様がご挨拶をされました。天江様には挨拶の中で、在大阪ラトビア共和国名誉領事館、関西日本ラトビア協会の活動についてもご紹介いただきました。

コンサートは、ウクライナの著名なオペラ歌手で、民族楽器（弦楽器）バンドゥーラ奏者でもありますオクサーナ・ステパニュックさんの歌と演奏からスタート。オペラ歌手としての圧倒的な声量、力強くも優しい声、そしてバンドゥーラの美しい音色がホールに響き渡りました。さらに、クラリネット、ヴァイオリン、フルート、ピアノ、ギター、アコーディオンなどにより支援のために集まった出演者の方々から、心地よい音楽を聴かせていただきました。また、歌手の小田陽子さんがギターの弾き語りで、「百万本のバラ」の原曲『マーラが与えた人生（ラトビアの歌謡曲）』を歌われました。そして、日本ラトビア音楽協会合唱団ガイスマの美しくも力強い歌声に魅了されて、コンサートは締めくくられました。

10名を超える出演者がウクライナ支援のためということで出演料無しで参加されていました。皆さんの平和を想う気持ちの強さを感じた2時間半でした。

左:日本ラトビア音楽協会 松原会長
右:元ウクライナ大使・元関西日本ラトビア協会会長 天江様

2022 7.3

タウトゥメイタスのコンサートに協賛

ラトビアで結成された女性ボーカルグループ「タウトゥメイタス」の来日コンサートが、兵庫県立芸術文化センターにて開催されました。

2019年以来の来日となったタウトゥメイタスですが、チケットは早い段階でsold out。開場前から沢山の方が列をなして待っていました。皆さんがどれだけ待ちわびていたのかがよく分かります。

コンサートに参加された皆さんに少しでもラトビアを感じていただけたらと、会場内のロビーに協会からラトビアの衣装と国旗を展示させていただきました。溝口常務理事のお店「ラトビア雑貨『SUBARU』」も、柳編みのバスケットやミトンなどの展示をされていました。

公演では、メンバーのコーラスに加えて、各自が楽器を演奏しながらのパフォーマンスもあり、最後までとても華やかで楽しく聴かせていただきました。特にユニゾンは、胸の奥までグッと響く圧倒的な歌唱力で魅了されました。

途中、ノリの良い歌には音楽に合わせて手拍子をしたり、今回の公演のためアレンジした『たなばたさま』を日本語で歌ってノスタルジックな雰囲気に包まれたり、タウトゥメイタスと会場の皆さんとが一体となって楽しめたコンサートとなりました。

2022 7.12

協会の奨学生　山﨑 志野さんが来館

在大阪ラトビア共和国名誉領事館に、協会の奨学生として、ラトビア国立音楽院に在学中の山﨑志野さんが来られました。

3年ぶりの一時帰国ということで日本を懐かしがられていた山﨑さんでしたが、せっかくの機会ですので、協会メンバー数名が集まり、お話をさせていただきました。

コロナ禍の影響もあり人数は限られましたが、協会メンバーとランチをしながら、山﨑さんの近況やラトビアの現況など、ざっくばらんに話をしながら楽しい時間を過ごさせていただきました。

協会メンバーとのランチ（山﨑さん:右から2人目）

2022 9.15

関西日本ラトビア協会理事会開催

2022年度の理事会を対面とリモートのハイブリット形式で行いました。半数の理事の方が対面で出席され、ゲストとして外務省大阪分室長の松代佳津美様をお招きしました。2年半の間、コロナ禍の影響で、トークサロンや理事会、ラトビアからの要人との面談等は、リアルでの開催は難しかったのですが、ようやく対面で開催することができました。

石橋理事長の挨拶ではじまり、1号議案「2021年度事業報告・収支報告・監査報告、2022年度事業計画・収支予算案」、2号議案「理事・監事の選任」、3号議案「奨学金規程の改定」、4号議案「奨学金の支援」と各議案上程し、承認されました。

理事会終了後は、ラトビアの要人の方々との面談が行われました。ラトビア共和国からは、イルゼ インドリクソーネ経済大臣、経済省の要人、カスパルス・ロジュカルヌス ラトビア投資開発庁長官、そして駐日ラトビア大使のズィグマールス ズィルガルヴィス大使、ラトビア投資開発庁日本代表、関西日本ラトビア協会からは理事長をはじめとする理事の方々が参加。約1時間にわたり、今後もラトビアと日本の文化・ビジネス交流をより深めていくことなどについて様々な話をさせていただきました。

左から、ズィルガルヴィス大使、インドリクソーネ経済大臣、石橋理事長、東郷前理事長

留学生　山﨑 志野さんの活動報告

ラトビア協会から奨学金を受けて、ヤーゼプス・ヴィートルス・ラトビア音楽院に進学されていた
山﨑志野さんの活動をご紹介します。
山﨑さんは、ラトビア音楽院で合唱指揮を学ばれ、学内だけでなく学外でも合唱団に入り、
活動されていました。さらに2022年9月から半年間、ラトビアを離れスウェーデンに交換留学をし、
さらなる成長のため、新たな学びの場に挑戦されました。

下記は、2021年3月にラトビア国立美術館で行われたパフォーマンスと、
リガ室内合唱団AVE SOLのイースターを祝うコンサートに参加された時の活動報告（抜粋）です。

支援期間:
2020年5月～2022年8月
（2021年8月を除く）

3月20日、ラトビア国立美術館Riga Bourse(Rīgas Birža)にて、指揮者、歌い手、そして作曲家としてパフォーマンスのライブ配信に参加しました。これはRiga　Bourseで開催されていたガラス芸術作品の国際展示会「Voice of Glass. Collaborative」の一環として、日本から出展された本郷仁さんの「自由の次元」という作品を中心としたコラボレーションパフォーマンスです。本郷仁さんのガラス作品を中心に、ダンサー、パフォーマーである日本のトムスマさん、そしてラトビアで生まれ育った多才な3人の歌い手が共演しました。声と、ガラスと、踊り、コンセプトの中にはラトビアと日本のメンタリティ、ラトビアの結縄文字――まさに空間を通してラトビアと日本が行きかうようなコラボレーションとなりました。作曲も、このコンセプトと、そこに流れるストーリーを踏まえてつくり、それらの要素が自然と入り混じる作品が出来上がりました。

このパフォーマンスを通して、私が長年探していた合唱の立ち位置の一つを見つけることが出来ました。そこには日本人としてラトビアの合唱指揮、文化を学び、それを今後どのような形でつないでいくのか、ということの一つの答えがありました。“コラボレーション”では、制作の過程、そして、それを演奏する中で文化の交流が起こることを実感し、それがもつ特有の力を見つけました。この“コラボレーション”を私の今後の一つの大きなテーマとし、実践していきたいと強く思いました。音楽院卒業後は、同音楽院の大学院に進学し、合唱を通して実現できるコラボレーションをテーマとして、ラトビア人アーティスト、または日本人アーティストとのコラボレーションなどを実践し、研究をしたいと思っています。ラトビアでは分野の垣根を超えたコラボレーションが積極的に行われており、常に新しい取り組みが生まれています。特に合唱がそこに介在するという形は、ラトビアならではであり、これらを研究し、力をつけるのには最適な場所です。ともに学ぶ仲間たちから得た、学びながら、積極的に生み出していく、という姿勢で。まずは卒業が先ですが、この野望を心に、引き続き努力を重ねます。

ラトビア国立美術館にて行われたパフォーマンスのライブ配信は、三章からなる「自由の次元」から、第三章「太陽の門」をお送りしました。下記のリンク（二次元コード）からご覧いただけます。もう一つは、リガ室内合唱団AVE　SOLのイースターのコンサート。こちらは撮影がされた後、配信されたものです。リガ・ドーム・カテドラルの建物の美しさを存分に味わえる映像の演出になっています。

改めて皆さんのご支援に感謝を申し上げます。振り返れば、皆さんからの支援なくしては経験できなかった出来事ばかりで、自分でも想像を超える学びと機会を得ることができています。皆さんからの応援は大きな励みになってきました。ご支援のお陰で蓄えられてきた技術と知識と共に、少しずつ日本での活動も始められればと思っています。これまで本当にありがとうございました。

2020年の夏至祭のAVE SOLの夏至コンサートにて

下記の二次元コードより動画がご覧いただけます。

ラトビア国立美術館にて行われた
パフォーマンス（動画）
https://fb.watch/4UojTCpbSb/

リガ室内合唱団AVE SOLの
コンサート（動画）
https://fb.watch/4Unz8TFCto/

留学生　宮本 航平さんの活動報告

ラトビア協会から奨学金を受けて、リガ工科大学に進学されていた
宮本航平さんの活動をご紹介します。
宮本さんは、リガ工科大学でコンピュータやITについて学ばれるとともに、
ラトビアと日本の文化交流を深めたいと様々な活動に取り組まれました。

下記は、コロナの影響などにより1年間休学されていた宮本さんが、
2022年9月に復学された時の活動報告（抜粋）です。

支援期間:
2022年9月～2023年7月

2022年9月、ラトビアに入国しました。滑走路が混んでいたのか、着陸してから飛行機の中で1時間以上座って待たされたことを覚えております。トランジットも含め約27時間のフライトで、くの字に曲がって固まってしまった腰をほぐしながら空港に降り立ち、最初に感じたのは「ああ、またここに戻ってきたんだな」という、そんな懐かしい気持ちでした。私は海外を旅することが好きで、これまで17カ国ほど旅をしてきましたが、外国の地に降り立ち、このような安心感を覚えたのは初めてのことでした。2019年から2年間ラトビアで生活してきた中で、いつの間にかラトビアが私にとって第二の故郷のような、そういった場所になっていたのだと思います。

大学の授業は9月5日から始まりました。コロナの影響で2020年の3月から授業はオンラインで行われていたのですが、約2年半ぶりに大学でのオフライン授業が再開されました。私はITを学んでいることもあり、実はラトビアでの学生生活のほとんどを、自分の部屋でパソコンを開いては閉じるような形で過ごしていたので、物理的な空間で授業を受けることに、はじめは多少の戸惑いを感じましたが、クラスメイトと教え合ったり、授業後に少し雑談をしたり、一緒に学食で昼食をとったり、そういったことができるオフラインの大学は素敵だなと思いました。

今、特に興味を持っているのはアセンブリ言語というプログラミング言語に関する授業です。私達が日々扱っているパソコンやスマートフォンは、究極的には「010001001000010…」といった0と1の電気信号だけで動いています。しかし、0と1の羅列は、人間にとって非常に理解しづらいため、その0と1で構成される命令を人間が理解できる形に翻訳した言語がアセンブリ言語です。このアセンブリ言語を理解することで、コンピュータそのものの仕組みを深く理解することができます。非常に難解な授業ではありますが、一生懸命学んでいきたいと思います。

また、関西日本ラトビア協会から奨学金を頂いている日本人の留学生代表としてラトビアと日本の交流に貢献したいという思いから、ボランティアで日本語を教える教師として活動することを決めました。ラトビア大学にはアジアスタディーズという学科があり、日本語や日本の文化を勉強している学生がいます。ラトビアから日本に留学する多くの学生はこの学科に在籍しています。そこで私は、日本語学科を担当しているスタッフに、日本語を教える手伝いをしたいという旨を伝え、数名の学生と連絡先を交換させていただきました。9月はマルガリタさんという女性と会い、日本の文化について話し合いました。今後も定期的にこのような機会を設け、少しでも彼らの助けになれるよう努めてまいります。

改めまして、私にこのような貴重な機会を頂き本当にありがとうございます。今後とも一生懸命活動して参りますので、どうぞよろしくお願い致します。

2022 10.23

『ラトヴィア放送合唱団』コンサートに後援

豊中市立文化芸術センターで、ラトヴィア放送合唱団のコンサートが開催されました。

合唱団の皆様の合唱は、とても迫力があり、時には心地良く響くものもあり、圧倒的な歌声に魅了された2時間でした。

会場ホワイエでは、関西日本ラトビア協会の鶴田理事が民族衣装を着てハーブティを販売されました。

公演終了後は、ご厚意で、ラトヴィア放送合唱団の方々と協会の皆さんで、集合写真を撮らせていただきました。

提供:豊中市立文化芸術センター

2022 11.25 ─ 11.27

『ラトビアデイズ 2022 in大阪』が開催

11月25日から3日間、グランフロント大阪　うめきた広場にて「ラトビアデイズ　2022 in 大阪」が開催され、ラトビア色豊かな物販ブース、キッチンカーが並び、多くの方が訪れました。

11月25日／1日目

1日目はオープニングセレモニーとして、デニス・ヴァシリエフス選手のフィギュアスケートショーに始まり、ステージではズィルガルヴィス大使の挨拶、大阪市を代表して経済戦略局立地交流推進部長の折原真子様の挨拶、関西日本ラトビア協会を代表して東郷前理事長に挨拶いただきました。

折原部長（中央）

ズィルガルヴィス大使（中央）

デニス選手（中央）

11月26日／2日目

今回ラトビアから来日した歌手のマルタさんの歌、ウズマニープの演奏、デニス選手のスケートショーなど、1日目にも増してイベント盛りだくさんで賑わいました。

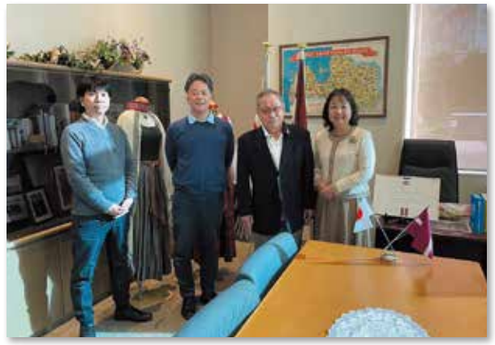
11月27日／最終日

朝からとても良い天気の中、マルタさんの美しい歌にはじまり、宝塚少年少女合唱団の子供達が元気な合唱を披露するなど、フィナーレに相応しい1日となりました。

2022 12.28

在ラトビア日本大使館の一等書記官 今西貴夫様来館

2022年10月から在ラトビア日本大使館に赴任されている今西貴夫一等書記官が一時帰国され、上野常務理事・池田常務理事とともにラトビア名誉領事館にお立ち寄りいただきました。



2023 3.28 ― 3.30

北海道東川町を表敬訪問

石橋理事長、上野常務理事、甲斐事務局長が、ラトビアのルーイエナ町と姉妹都市提携を結んでいる北海道東川町を表敬訪問しました。

美味しい水・空気、自然豊かな町に触れながら姉妹都市の歴史を学び、松岡市郎町長と新町長の菊地伸町長をはじめとする東川町役場の方々と、町の現状や盛んに行われている国際交流の話に花を咲かせました。さらに在旭川ラトビア共和国名誉領事館の元名誉領事の井下佳和様をはじめ、ラトビアにゆかりのある方々と情報交換・友好を深め、東川町を満喫いたしました。

また、関西日本ラトビア協会の奨学生で、東川町で国際交流員として元気に働いているアルタさんにも久しぶりにお会いできました。

菊池新町長（後列右から2人目）、松岡町長（後列右から3人目）、

井下様（右端）

個人会員

50音順敬称略（2023年8月31日現在）

穐山　和生	正司　泰一郎	藤原　秀之
東　美紗都	鈴木　亜衣	古川　一郎
安達　和彦	鈴木　広隆	古川　岩夫
阿部　文彦	田口　瑠璃	古田　晴彦
荒木　美眞	竹内　大樹	古海　賢二
石原　美生子	立岡　弘	堀田　健二
伊藤　茂男	田中　伸一	堀内　知子
伊藤　正男	田中　悠樹	間﨑　泰光
今城　孝司	津田　恵美	益田　信行
岩井　香代子	東郷　久野	丸山　竜誠
岩井　二郎	轟木　裕子	三木　保人
上野　龍平	中島　文子	水谷　隆之
宇陀　性現	長塚　徹	三宅　康彦
榎本　勤	永見　義広	宮本　菜穂
大國　利雄	夏目　剛	物部　健依
大橋　正孝	西﨑　明美	桃井　猛
岡　美文	西野　勝弘	森本　健太郎
河端　健司	橋田　亨	安田　勝
木下　武幸	濱田　諭稔	山﨑　志野
小巖　仰	早川　明弘	山原　一晃
権藤　眞禎	平田　大	山村　有佳里
阪上　義昭	藤原　和之	

ラトビアのもみの木

2022年4月2日

8年前、僅か15cmくらいの苗木でラトビアから
日本に来た『もみの木』。
前理事長の東郷顧問のご自宅ですくすくと育ち、
このたび名誉領事館脇に移植いたしました。
今は130cmくらいあります。
移植当日には、ここまで育てていただいた東郷顧問、
もみの木を日本へ導いていただいた上野常務理事に
見守っていただきました。
もみの木がクリスマスツリーと言われるようになったのは、
ラトビアが発祥と言われております。
飾り付けができる日を楽しみにしています。

2022年4月2日
東郷顧問（左から2人目）、
上野常務理事（左から3人目）

2023年9月19日現在（少し大きくなりました）

法人会員

50音順（2023年8月31日現在）

あいおいニッセイ同和損害保険株式会社	サントリーコーポレートビジネス株式会社	株式会社南都銀行
株式会社アサノ	サン美術印刷株式会社	日鉄鋼板株式会社
朝日ウッドテック株式会社	清水木材株式会社	日鉄建材株式会社
株式会社朝日押捻子製作所	サントリービバレッジソリューション株式会社	日鉄物産株式会社
株式会社旭屋書店	昇信化成株式会社	日本製鉄株式会社
株式会社石川製作所	新宮エネルギー株式会社	日本アーツ株式会社
株式会社イシモク・コーポレーション	株式会社伸明	日本ノボパン工業株式会社
株式会社伊藤園	株式会社伸和エージェンシー	ニホンフラッシュ株式会社
伊藤忠テクノソリューションズ株式会社	スターネット株式会社	株式会社ノザワ
稲畑産業株式会社	セコム株式会社	フクビ化学工業株式会社
因幡電機産業株式会社	株式会社ゼンリン	富士通株式会社
株式会社岩崎貞三商店	綜合警備保障株式会社	株式会社富士通エフサス
株式会社インターネットイニシアティブ	損害保険ジャパン株式会社	フルサト工業株式会社
SMB建材株式会社	ダイキン工業株式会社	文化シヤッター株式会社
SCSK株式会社	株式会社大伸社	松本林業株式会社
SCSKサービスウェア株式会社	ダイドードリンコ株式会社	株式会社丸加商店
エヌ・ティ・ティ・コミュニケーションズ株式会社	大日鋼業株式会社	株式会社丸国林業
応用技術株式会社	大和ハウス工業株式会社	丸紅木材株式会社
大阪ガス株式会社	大和物流株式会社	株式会社マルホン
株式会社大塚商会	大和リース株式会社	株式会社みずほ銀行
河村電器産業株式会社	タカラスタンダード株式会社	みずほ信託銀行株式会社
株式会社キョーライト	チヨダウーテ株式会社	株式会社三井住友銀行
クマリフト株式会社	ツカ・カナモノ株式会社	株式会社メディアテック
株式会社構造計画研究所	ディーエイチホーム株式会社	株式会社ユニフロー
三京化成株式会社	株式会社デザインアーク	株式会社LIXIL
株式会社山水	株式会社東芝	菱電商事株式会社
サンスター技研株式会社	TOTO株式会社	渡辺パイプ株式会社

編集後記

3年ぶりの会報となりました。2020年から3年間、コロナ禍で協会活動が随分と抑制された中ではありましたが、嬉しい話題もありました。2020年12月に、この12年間の協会活動を評価していただき、協会として外務大臣表彰をいただくことができました。これもひとえに理事、会員様をはじめ多くの関係者のご協力、ご支援の賜物です。本当にありがとうございました。また、2021年12月には、ラトビア日本友好100周年イベントが六本木で、そして昨年2022年11月には、2025年の大阪・関西万博に向けて、日本の皆さんに、ラトビアの事をもっと知っていただく目的で「ラトビアデイズ2022」が大阪駅前広場で開催され、協会もサポートさせていただきました。このようなイベントが今後も行われることを望んでいます。
この場をお借りして、お礼をお伝えしたいと思います。今回、上野常務理事、池田常務理事にご寄稿いただき、また、溝口常務理事には冒頭のラトビアの紹介ページ等、制作のサポートをしていただきました。大変ありがとうございました。
最後になりますが、コロナしかり世界情勢も安心できる状況ではありませんが、できるところから順次活動を再開していきたいと考えています。これからも、引き続きご支援ご協力よろしくお願いいたします。　（事務局長　甲斐）

cover photo by Akiko Mizoguchi